

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 15 日現在

機関番号：32635

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370059

研究課題名(和文) 註釈文献から見た後期インド密教における教理と実践の関係に関する研究

研究課題名(英文) Studies on Relationship between Doctrines and Practices in Indian Later Tantric Buddhism on the basis of Examination of Exegeses

研究代表者

種村 隆元 (TANEMURA, Ryugen)

大正大学・仏教学部・准教授

研究者番号：90401158

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題では、インド密教における実践とその背後にある教理の関係を考察するために、『サンヴァローダヤタントラ』に対するラトナラクシタの註釈書『パドミニ』を中心として、関連書文献を精査した。『パドミニ』第1章前半、第13章前半、第22章前後半のサンスクリット語原典の世界初となる校訂テキストを出版するとともに、密教経典の正当性、密教の瞑想実践の正当性および有効性、尊像奉納儀礼の背景の教理などを検討した。そして、ラトナラクシタは密教実践を正当化する際に伝統的な非密教の大乗仏典を援用していること、また、その議論の背景には後期インド仏教における精緻な学問大系があることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research project is to examine relationship between practices and doctrines behind them in Indian later tantric Buddhism. To this end, we have investigated the Padmini, a commentary by Ratnaraksita on the Samvarodayatantra, and other related texts. We have published critical editions of the original Sanskrit texts of the following chapters of the Padmini: chapter 1 (the first half), chapter 13 (the first half), and chapter 22. All of these are the first critical editions of the relevant chapters. We have also examined Ratnaraksita's arguments about the authority of the tantric scriptures, the validity and authority of the tantric meditation, the doctrines behind the consecration of images, and other topics. Through these examinations, we have found that Ratnaraksita uses both tantric and non-tantric texts for his proof of the authority of the tantric practices and that there is an elaborate system of knowledge in Indian later Buddhism behind his arguments.

研究分野：インド密教

キーワード：インド密教 教理 実践 註釈文献

1. 研究開始当初の背景

(1) 5～6世紀からインド仏教のメインストリームに躍り出てきた密教の、インドにおける思想および実践の展開を理解するためには、聖典、註釈書、実践マニュアルなどのサンスクリット語原典が基本的資料となるが、信頼のできる批判校訂テキストが驚くほど少ない状況である。したがって、上記の目的のためにはサンスクリット語諸文献の批判校訂テキスト作成とそれに基づく厳密な文献学的研究が急務である。

(2) 密教はその発展過程で、非仏教の実践をも取り入れながら、その実践体系を形成していった。仏教に取り入れられた「新しい実践」が「仏教化」していく過程を理解するためには、教理と実践との関係の考察が不可欠であり、これは、5～6世紀以降のインド仏教史の構築作業に直結するものである。

(3) 上記の教理と実践の関係を考察するためには、インド密教を主体的に担った人物の問題意識がもっとも顕著に表れている註釈文献を中心に研究する必要がある。このような背景のもと本研究課題の設定に至った。

2. 研究の目的

(1) 上述の問題意識のもと、本研究はインド仏教終焉期の13世紀に著された、『サンヴァローダヤタントラ』に対するラトナラクシタの註釈書『パドミニー』を主たる研究対象として、その厳密なサンスクリット語校訂テキストおよび訳註の作成を中心課題とする。

(2) 上記の作業で得られた原典テキストの精読を起点として、そこに集大成される最後の密教の教理と実践の関係を解明する。

(3) その上で密教の教理と実践の関係性の淵源を先行資料に遡って丹念に探求し、探り出した淵源から『パドミニー』に至るまでの展開の道筋を一本ずつ描き出し、5～13世紀に至る仏教史構築の一助とする。

3. 研究の方法

(1) 上述の通りラトナラクシタ著『パドミニー』を中心のテキストとする。その理由は以下の通りである。

① 註釈対象の『サンヴァローダヤタントラ』と『パドミニー』自体のサンスクリット語写本が複数存在し、比較的容易に入手可能である。

② 『パドミニー』がインド密教の最後期に著されており、教理・実践に関するさまざまな事項が集約されている。

③ それらの事項の淵源を探ることによりインド密教における教理・実践の展開の道筋を見通すことが可能になる。

(2) 密教聖典の仏説としての正当性、瞑想実

践、尊像奉納儀礼といった特定のトピックに焦点を絞り、『パドミニー』の該当する章のサンスクリット語校訂テキストおよび訳註を作製する。

(3) (2)で得られた基礎資料に基づき、比較的時代の近接する文献(例：ラトナーカランティヤアバヤーカラグプタの著作)を中心とした関連文献と比較し、教理と実践の関係の議論に関して、『パドミニー』に見られる議論の特徴や時代的に先行する文献との関係を精査する。

4. 研究成果

(1) 研究成果は研究代表者と研究分担者の連名による成果、代表者・分担者の個別の成果よりなる。

(2) 研究代表者・研究分担者の連名による成果は以下の通りである。

① 本研究課題の紹介を兼ね、主たる研究対象の『パドミニー』に関する諸資料を概観する論文を著した。当該論文では、本報告書の冒頭に記した研究背景、目的を示したのち、先行研究の紹介、『パドミニー』のサンスクリット語諸写本の書誌情報および特徴、チベット語訳の書誌情報およびその翻訳事情、『パドミニー』の章立て、『パドミニー』と内容的に近い関係にある『サッド・アームナーヤ・アヌサーリニー』の写本の紹介を行い、今後の『パドミニー』研究に必要な基礎資料を網羅的に提示している。

② ラトナラクシタが『パドミニー』を著作した動機を解明するために、その冒頭偈および廻向偈を検討し、論文として発表した。この検討を通して、ラトナラクシタが冒頭偈においてタントラを海にたとえ、その海に入る手がかりとして本書を著したこと、冒頭偈に自らの名前をそして廻向偈に著作のタイトルを織り込んでいることを確認した。そして、ラトナラクシタが本書の内容が師子相承の教えに忠実に基づいていると表明する態度は、アバヤーカラグプタなど先行する碩学に忠実な本書中の著作態度と一致することも確認した。

③ 『パドミニー』第1章前半のサンスクリット語校訂テキストおよび註を発表した。第1章前半は、経典の序文に註釈を施している箇所、「私はこのように聞いた。あるとき世尊は」という冒頭部の一節の註釈を通じての密教経典が仏説であることの証明が主たる内容である。証明内容の一例を挙げると、世尊は三界を救おうとして正等覚を得て、人々を法の甘露で満足させたが、その法を説いた時に存在していなかった教化対象のために『サンヴァローダヤタントラ』の合誦が行われたのであり、紛れもない仏説であることを述べている。

注目すべき点は、その仏説であることの証明に伝統的な非密教の大乗仏教の著作(ディ

グナーガ著『般若波羅蜜多円集要義論』、『撰大乘論』を議論に援用していること、および秘儀的な解釈により、表面上の意味とは異なる「真意」を示している点である。

尚、第1章後半では、密教実践の果としての持金剛が議論されているが、そこでは『ヴァークヤパディーヤ』などの文法学派の著作に見られる議論も援用されていることを確認している。当該部分に関しては補助事業期間終了後も引き続き研究を継続しており、近い将来の出版を計画している。

(3) 研究代表者の種村は、『パドミニー』第22章のうち、尊像奉納儀礼のセクションのサンスクリット語校訂テキストおよび註、おなじく第22章前半のサンスクリット語校訂テキストおよび訳註を出版した。前者では、本来「無住処」である尊格が信心ある者の福德のために、尊像に留まることが可能であるという議論を確認した。また、第22章前半は密教経典の分量と仏教経典および実践の階層的分類をテーマとしている。声聞乗→波羅蜜理趣→密教という実践体系のヒエラルキー、および密教の実践内での生起次第→究竟次第というヒエラルキーが明確に示されているとともに、そこに実践者の素質(種姓)の議論が持ち込まれていることを明らかにした。

尚、『パドミニー』第18章(「灌頂」の章)に関して、サンスクリット語校訂テキストの草稿を作製しているが、こちらに関して、校訂の精度を上げ、近い将来出版する計画である。

(4) 研究分担者の加納は、『パドミニー』第1章のサンスクリット語校訂テキスト作製を共同作業として進める傍ら、その前半の訳註の草稿を完成させている。『パドミニー』の著者ラトナラクシタの直前に活躍した碩学アバヤーカラグプタが著した『牟尼意趣莊嚴』のサンスクリット語校訂テキストおよび訳註研究を通して、その顕教(非密教の大乗仏教)の教学体系を明らかにした。それにより、ラトナラクシタの活躍した時代、仏教教学の知の体系が、消滅直前の終焉期であるにもかかわらず、精緻で華やかなものであることが判明し、ラトナラクシタの教学知識の深さには十分な根拠があることを確認した。

(5) 研究分担者の倉西は、『パドミニー』第13章(尊格の観想法がテーマ)を中心に、そのサンスクリット語校訂テキストおよび訳註の作製に従事した。その成果の一部として、第13章前半のサンスクリット語校訂テキストが出版されている。さらに、ラトナラクシタがその議論を展開する際に引用する文献を精査した。その結果、ラトナラクシタが顕教および密教両分野の文献を広範に引用し(例:ジュニャーナパーダ著『アートマ・サーダナ・アヴァターラ』, アールヤデーヴァ

『四百論』, ダルマキールティ著『ブラマナーヴァールッティカ』), 議論を展開していること明らかにした。これは(4)に記載している加納の研究による成果と軌を一にするものである。

尚、第13章後半に関してはサンスクリット語校訂テキストおよび訳註作製の作業を継続しており、近い将来の出版を計画している。

(6) 以上のように、本研究課題においては、部分的ではあるが『パドミニー』の校訂テキストを出版してきている。これは、国内外における初めての校訂本であり、国際的にみても有意義な研究成果であると自負できる。今後も本研究課題で得られた成果を敷衍し、継続して校訂テキストおよび訳註を出版していく計画である。そのことにより、国際的な仏教学、ひいては古典インド学の分野において、その研究発展の基礎となる資料を提供していけると確信している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計32件)

① 種村隆元・加納和雄・倉西憲一, Ratnaraksita 著 Padmini 第1章前半: Preliminary Edition および註, 川崎大師教養学研究所紀要, 査読有, 創刊号, 2016, pp. (1)-(33).

② 種村隆元, Ratnaraksita 著 Padmini 第22章前半: Preliminary Edition および訳註, 現代密教, 査読無, 第27号, 2016, pp. (73)-(91), http://www.chisan.or.jp/topics_detail41/id=907

③ Kuranishi, Kenichi, A Study on Scholarly Activities in the Last Period of the Vikramasila Monastery: Quotations in Ratnaraksita's Padmini, 東洋文化, 査読有, 96, 2016, pp. 49-61. <http://hdl.handle.net/2261/59432>

④ 倉西憲一, インド密教学僧の学術活動に関する一考察: ラトナラクシタ著『パドミニー』所引の文献の傾向と分析にもとづいて, 密教学研究, 査読有, 47, 2015, pp. 15-28.

⑤ 種村隆元・加納和雄・倉西憲一, ラトナラクシタ著『パドミニー』冒頭偈および廻向偈, Acta Tibetica et Buddhica, 査読無, 7, 2014, pp. 139-149.

⑥ 種村隆元・加納和雄・倉西憲一, ラトナラクシタ著『パドミニー』: 資料概観, 大正大

学総合佛教研究所年報, 査読有, 36, 2014, pp. 162-176.

<http://id.nii.ac.jp/1139/00000578/>

⑦種村隆元, Ratnaraksita 著 Padmini 第 22 章: Prastha セクションのサンスクリット語校訂テキスト, 現代密教, 査読無, 25, 2014, pp. 97-126.

http://www.chisan.or.jp/files/user/pdfD/gendaimikkyo/25pdf/y01_25.pdf

⑧倉西憲一, Ratnaraksita 著 Padmini 第 13 章: 校訂テキスト (前編), 大正大学総合佛教研究所年報, 査読有, 36, 2014, pp. 177-194
<http://id.nii.ac.jp/1139/00000579/>

[学会発表] (計 21 件)

①Kuranishi, Kenichi, Seeking Scholarly Activities among Sanskrit Manuscripts, Geumgang-Taisho Joint Seminar, 2015 年 8 月 21 日, 金剛大学, 忠清南道論山市(韓国)

②種村隆元, Padmasrimitra 著 Mandalopayika: 思想・実践の特徴について, 仏教思想学会, 2015 年 7 月 11 日, 筑波大学 (茨城県つくば市)

③Kano, Kazuo, From Kashmir to Tibet: A set of proto-Sarada palm leaves and two works on the Ratnagotravibhaga, Workshop: Prof. Kazuo Kano, 2015 年 4 月 21 日, Institute fur Kultur- und Geistesgeschichte Asiens, Wien, (Austria).

④Kuranishi, Kenichi, Quotations and re-quotations: Scholarly activities in the Buddhist monasteries, Tantric Communities in Context: Sacred Secrets and Public Rituals, 2015 年 2 月 5 日, Institute for the Cultural and Intellectual History of Asia, Vienna (Austria).

⑤Tanemura, Ryugen, Abhayakaragupta on Tantric Practice, 17th Congress of the International Association of Buddhist Studies, 2014 年 8 月 19 日, University of Vienna, Vienna (Austria).

⑥種村隆元, 密教興隆の要因に関する一考察, 第 58 回国際東方学会議シンポジウム「インド古代・中世における思潮変革のモメンタム」, 2013 年 5 月 24 日, 日本教育会館 (東京都千代田区)

[図書] (計 4 件)

①Jonathan A. Silk (Editor-in-chief). Ryugen Tanemura, Kazuo Kano et al., Brill, Brill's Encyclopedia of Buddhism Volume 1: Literature and Languages, 2015, 1065 pages (Tanemura: pp. 326-333, Kano: pp. 373-381,

382-389) 著者全 76 名. 掲載順: 23 番目 (種村), 29, 30 番目 (加納)

②高崎直道監修, 桂紹隆・斎藤明・下田正弘・末木文美士編, 種村隆元他著 (計 11 名中 3 番目に掲載), 東京・春秋社, シリーズ大乘仏教 10 大乘仏教のアジア, 2013, pp. 73-102 (総ページ数 316)

[その他]

ホームページ等

①Academia.edu (TANEMURA, Ryugen)
<https://tais.academia.edu/RyugenTanemura>

②Academia.edu (KANO, Kazuo)
<https://koyasan-u.academia.edu/KazuoKano>

③Academia.edu (KURANISHI, Kenichi)
<https://tais.academia.edu/KenichiKuranishi>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

種村 隆元 (TANEMURA, Ryugen)
大正大学・仏教学部・准教授
研究者番号: 90401158

(2) 研究分担者

加納 和雄 (KANO, Kazuo)
高野山大学・文学部・准教授
研究者番号: 00509523

倉西 憲一 (KURANISHI, Kenichi)
大正大学・仏教学部・講師
研究者番号: 90573709

(3) 連携研究者

苫米地 等流 (TOMABECHI, Toru)
一般財団法人人情報学研究所・仏典写本
研究部門・主席研究員
研究者番号: 60601680

ヴァースデーヴァ ソームデーヴァ
(VASUDEVA, Som Dev)
京都大学・文学研究科・特定教授
研究者番号: 10625594

アーチャールヤ ディワーカラ (ACHARYA, Diwakar)
京都大学・文学研究科・准教授
研究者番号: 90612698